

下校前15分間の「長善タイム」で授業と家庭学習の連動を強化

新潟県 燕市立小池中学校

小池中学校では毎日、授業終了後の15分間を使い、生徒全員でその日の授業の振り返りと、家庭学習の計画を立てる「長善タイム」を行っている。取り組みを始めて6年、家庭学習の定着に課題があった生徒たちは、どのように変わったのだろうか。

「長善タイム」の概要

1日の授業を振り返り 家庭学習の計画を立てる

燕市立小池中学校では、6時限目が終わると、生徒の声で教室がにわかに活気付く。友だちと談笑しながら、その日の授業で使った教科書やノート、ワークを全て机の上にならずたかく積み上げていく（写真）。そして、5分後にチャイムが鳴ると、教員が指示をしながら、話をびたりとやめ、机に向かい教科書などをめくりながらノートに書き始める。

これは、毎日15分間行う「長善タイム」(図

1)だ。生徒が1日の授業を振り返り、分かったこと、分からなかったことを整理し、帰宅後、いつ、何を学習するのかを決めて、教科・内容・教材・時間をノートに書き込む。1年生では計画を立てるのに10分間程掛かる生徒もいるが、2・3年生の大半は5分間程で計画を終え、残りを計画に沿った自習に充てる。家庭学習の内容は、「授業内容を振り返りノートにまとめる」「漢字や英単語の反復練習」など、自分の課題に応じて自由に決める。理解できていなかった箇所は、その日に授業を行った全学級を巡回する教科担当に質問できる。「皆で計画を立てると気持ちが落ち着

くし、家に帰ってからスムーズに勉強に取り掛かれます」と生徒は言う。15分間が過ぎたらそのまま学活を行い、落ち着いた雰囲気です。1日の最後に静の時間を設けることで、学校生活に動と静のメリハリが生まれるのも「長善タイム」の良さだと、研究主任の君正人先生は話す。「長善タイム」は、1日の最初に行う朝読書と共に、学校が最も静かになる時間です。最初と最後にそうした時間があることにより、学校全体の落ち着きや生活リズムを生み出していると感じます」

School Data

◎1947（昭和22）年に開校。「考える力」「伝え合う力」「つながる力」を育み、「豊かな心と活力をもって生きる生徒」の育成を目指す。2009年から「長善タイム」を教育課程に位置付け、家庭学習習慣と基礎学力の定着を図る。



校長◎小野塚正史先生

生徒数◎247人 学級数◎9学級（うち特別支援学級1）

所在地◎〒959-1265 新潟県燕市道金 1095-1

TEL◎0256-64-2033

URL◎<http://www.tsubame-city.ed.jp/koike-j/>

公開研究会◎未定

学びの質を高める**家庭学習指導**



写真 「長善タイム」の様子。家庭学習の計画は「18:10～18:30 社会 ノート復習」というように、具体的に立て、自主学习ノートに書き込む

◎「長善タイム」の工夫① 学校で学習内容を覚えておけば 帰宅後、スムーズに学習に入れる

「長善タイム」は、自学への意識を高め、授業と家庭学習のサイクルの定着を目的として、2009年に始めた。「長善」の名は、幕末から明治にかけて、この地で多くの人材を輩出した私塾「長善館」にちなんだ。進取の精神を抱いて越後から雄飛した先達の志を、生徒に受け継いでほしいという思いが込められている。

家庭学習習慣の定着は、同校の長年の課題だった。同校が08年度に行った生徒の意識調査では、生徒の35%に毎日家で学習をする習慣がなかった。そこで、家庭学習の進め方を

指導し、自主学习ノートを始めたところ、09年度には16%まで減らせた。ところが、10年度の調査では「計画を立てていない」生徒が76%もいることが明らかになった。進路指導主事の田中広明先生は次のように語る。

「本校の生徒は、生活態度は落ち着いている半面、のんびりした性格で、互いに刺激し合いながら切磋琢磨する意識が希薄です。学力的には良いものを持っていても、自分で計画を立てて実行するのが苦手で、家庭学習は目標の2時間に届かない状況でした」

当時の教頭と研究主任は、家庭学習の習慣が定着しないのは、学校の授業と家庭学習をつなぐ仕組みがないことに原因があると考えた。そして、先進校の視察を重ね、生徒を家庭学習へ導く方法として考案したのが「長善タイム」だ。導入前年に赴任した学習指導主任の田邊澄子先生は、

当時をこう振り返る。

「家庭学習が定着しない要因には、部活動による疲れ以上に、何をすればよいのか、思い付かないということが大きくありました。そこで、計画を立て、自学に取り掛かるところまでを学校で行うことで、家庭

図1 「長善タイム」の進め方

長善タイムの進め方

1日の授業を振り返り、家庭学習の計画を立てましょう

- 1 教科書、ノート、学習プリント等を机に出します。
- 2 今日の授業を振り返ります。
 - ① 今日の授業で何を学習したのかを確認します。
 - ② 分かったこと・よく分からなかったことを整理します。
 - ③ できたこと・よくできなかったことを整理します。
 - ④ 家庭で学習することを考えます。
復習、予習、ドリル学習(漢字・計算・英単語など)
- 3 家庭学習の計画を立て、自主学习ノートに予定を書きます。
 - ① 家庭学習の予定時間(開始・終了予定時刻)
 - ② 家庭学習の計画
 - 宿題
 - 自主学习
 ★ 何をやるか、どこをやるかを具体的に書きます。
- 4 分からないことや疑問に思ったことなどを、手を挙げて、積極的に先生に質問します。
- 5 自主学习を開始します。
※ 家庭でその続きをやりましょう。

「長善タイム」の進め方を示したプリント。各教室にも模造紙サイズで掲示してある *同校の資料をそのまま掲載



田邊澄子 たなべ・すみこ
燕市立小池中学校 学習指導主任。国語科担当。「生徒にとって、これからの人生の教養になるような授業をしていく」



田中広明 たなか・ひろあき
燕市立小池中学校 進路指導主事。3学年主任。数学科担当。「『数楽』で柔軟な発想を、『共感』で心の耕しを」



君正人 きみ・まさと
燕市立小池中学校 研究主任。社会科担当。「生徒が生きていくためのヒントになるような授業を心掛けている」



小野塚正史 おのつか・まさし
燕市立小池中学校 校長
「将来の自己実現に向けた学力が身に付く『充実した学びの場』がある学校を目指す」

でもスムーズに学習に入れるのではないか、という研究主任の提案を受けて始めました」

「長善タイム」は全校体制で指導に当たる。5教科の教員は、その日に授業を行った全ての学級を回り、生徒の個別質問に答える。当初は学級担任だけが指導していたが、「疑問点は持ち帰るのではなく、その日のうちに解決すべきだ」という意見が出て、教員全員で校内を巡回する方法となった。その際、音楽や保健体育などの実技教科の担当教員は、各学級の様子を見ながら廊下を巡回する。

「質問がある生徒は黙って挙手をして待つのがルールなので、発言が苦手な生徒にとっても質問しやすいようです。教室に行った時にたくさん手が挙がるとうれしくなりますが、質問が多い箇所は自分の授業が分かりにくかったことの表れでもあるので、指導改善に生かすようにしています」（田邊先生）

●「長善タイム」の工夫②

毎回、授業の最後に振り返りをし 授業の理解度を把握させる

「長善タイム」の短時間で、授業の振り返りがしっかり出来るように、授業も工夫している。どの教科でも、毎時間、授業の冒頭で本時の「めあて」を明確にし、最後の5分間で「振り返り」をする。

振り返りの方法は教員によって異なる。例えば、2年生の数学では、A4判の「振り返り

図2 数学の「振り返りカード」

数学自己評価カード		2年 組 番		名前	
単元名	図形の性質の調べ方	一言感想	挙手・板書	宿題・忘れ物	
学習月日	今日の学習のめあて	授業の集中度 めあての理解度	一言感想 ・何がわかって、何がわからなかったか ・先生への要望 ・全体の感想 など		
1	11/6	(O) (O)	何がわかって、何がわからなかったか 先生への要望 全体の感想 など		
2	11/7	(O) (O)	何がわかって、何がわからなかったか 先生への要望 全体の感想 など		
3	11/8	(O) (O)	何がわかって、何がわからなかったか 先生への要望 全体の感想 など		
4	11/9	(O) (O)	何がわかって、何がわからなかったか 先生への要望 全体の感想 など		

数学の「振り返りカード」は、授業の理解度や集中度の他、挙手・板書は出来たかなどを記入させる
*同校の資料をそのまま掲載

りカード」に、授業の理解度、集中度をそれぞれ4段階で自己評価し、更に出来たこと、出来なかったことを「一言感想」として短く記入させる(図2)。「図形の性質の調べ方」の単元では、「図形は得意なので今のところは分かる。今後が楽しみ」「図形はいろいろなつながりがある、生徒が意欲的に取り組んでいる様子がある、生徒が意欲的に取り組んでいる様子が見通しを持って学習できるように、単元ごと「学習のめあて」が一覧表になっている。「カードを見ると、数学が得意な生徒でも

理解できていない場合があります。気になる生徒がいれば『長善タイム』で巡回する際に声を掛け、どこでつまづいているのかを確認するよう心掛けています」(田中先生)

「長善タイム」は、生徒が授業内容の不明点をなくし、家庭学習の計画を立てるだけではなく、今日の授業は生徒にとって分かりやすかったのか、教員が自身の授業方法や教える方を振り返る時間でもある。

●「長善タイム」の工夫③

教員が「一枚岩」になって 15分間を捻出

この「長善タイム」は、小池中学校発の取り組みとして、今では燕市内の多くの小・中学校が行っている。方法は各校の実態に応じて変えていて、時間も5分間、10分間とさまざまだが、市内の学校が全体で学習習慣の定着と質の向上に力を入れるようになったのは、大きな成果といえる。

市の教育行政に影響を与えるまでになった「長善タイム」だが、軌道に乗るまでは課題もあった。最初のハードルは「15分間という時間をどのように捻出するか」だった。朝の登校時間を5分早め、給食の時間を5分削り、部活動を5分遅らせて時間を確保した。登校や給食の時間を変えることに対しては異論もあったが、「教員が一枚岩にならないければ学校は変わらない」という当時の教頭や

学びの質を高める**家庭学習指導**

研究主任の呼び掛けで導入が決まった。当初は消極的だった教員も、取り組みが進むに連れ、生徒が家庭学習をしつかりしていく様子を見て、「長善タイム」はなくてはならないものだと感じ始めたという。

生徒も、最初の頃こそ「長善タイム」で何をすればよいのか分からず、落ち着かない雰囲気もあったが、1、2年の間に静かに取り組める環境が出来上がっていった。

「6時限目終了後の15分間と、時間を固定したのが良かったと思います。授業が終わったら必ず『長善タイム』があると分かっている、生徒は自然と静かな雰囲気になれるので、生徒は自然と静かな雰囲気に溶け込めるのだと思います。今では6時限目が終わったなら、チャイムを待たずに計画を立て始める生徒も少なくありません」(田邊先生)

また、同校では毎学期に相談週間を設け、1人10〜30分間、どのような相談でも受けている。そのように、教員が生徒をしつかり見ていることが、生徒に安心感、教員への信頼感を生み、校内の落ち着いた雰囲気につながっている。

● 成果と課題

課題は上位層の引き上げと 将来を見据えた学ぶ意欲の喚起

「長善タイム」を始めて6年経ち、取り組みの成果はデータにも表れている。校内アンケートによると、「家庭学習に継続して

取り組んでいる生徒」は、08年の65%から14年には90%まで上昇。また、14年度の文部科学省「全国学力・学習状況調査」の「復習をしているか」の項目は、全国平均50・4%に対して同校は72・4%、「平日の家庭学習時間が1時間以上の生徒」の割合は、全国平均67・9%に対して同校は72・3%だった。学方面でも、A問題・B問題共に全国平均を上回り、特に数学Aは8・5ポイント、数学Bは7・0ポイントも全国平均正答率を上回った。

一方、課題もある。その1つは土日の家庭学習だ。「長善タイム」は、その日の授業の振り返りを基に学習計画を立てるため、週末の家庭学習がどうしても手薄になる。定期考査前以外の週末にも学習を継続させる仕組みが必要だという。もう1つは成績上位層への対応だと、小野塚正史校長は語る。

「1・2年生は意欲的に取り組んでいます。3年生になると形骸化して、特に上位層は落ち着いた雰囲気に安穩としてしまう生徒が目立ちます。家庭学習習慣の定着が出来たら、上位層を伸ばすための方策をどうするかという視点が、『長善タイム』にも必要だと考えています」

これらの課題は、「研究推進委員会」が中心となって、教職員全員で14年度内に具体案を見いだす方針だ。

また、生徒の学習意欲を高めるために、今後はキャリア教育も充実させていくという。

「本校の生徒は、学習習慣は身に付いていますが、学習意欲にはまだ課題があります。内発的な意欲を高めるためにはキャリア教育が切り札になると考えています。高校卒業後、今や7〜8割の生徒が大学や専門学校に進学していますが、中学校のキャリア教育では高校調べや訪問、職場体験学習を実施するものの、その連続性に課題があり、4、5年後の自分を思い描く機会がありません。本校の生徒は「長善タイム」によってスキルステップで先を見通して行動する力を培ってきました。今後は、高校の先にある大学や専門学校の連携を密にすることにより、自分の将来に見通しを持つ生徒が増えていくと共に、成績上位層を中心に自ら学ぶ意欲を喚起できるものと期待しています」(小野塚校長)



小野塚校長が考える 学校マネジメント

本校には経験豊富なベテラン教員が多く、生徒のために何が必要かを常に考え、部活動も一緒に汗を流すばかりです。生徒も素直に頑張るので、それに触発され、教員ももっと頑張ろうという意識を持るところが本校の強みです。ただ、経験豊富が故に、取り組みを大幅に変えたり、取り組みそのものをやめたりすることに抵抗感が強いのも事実です。時には大胆な改革も必要であることを理解してもらい、スクラップ&ビルドを進めていくことが、今後の私の役割だと考えています。